

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 110人

② 数学 109人

③ 理科 109人

5 留意事項

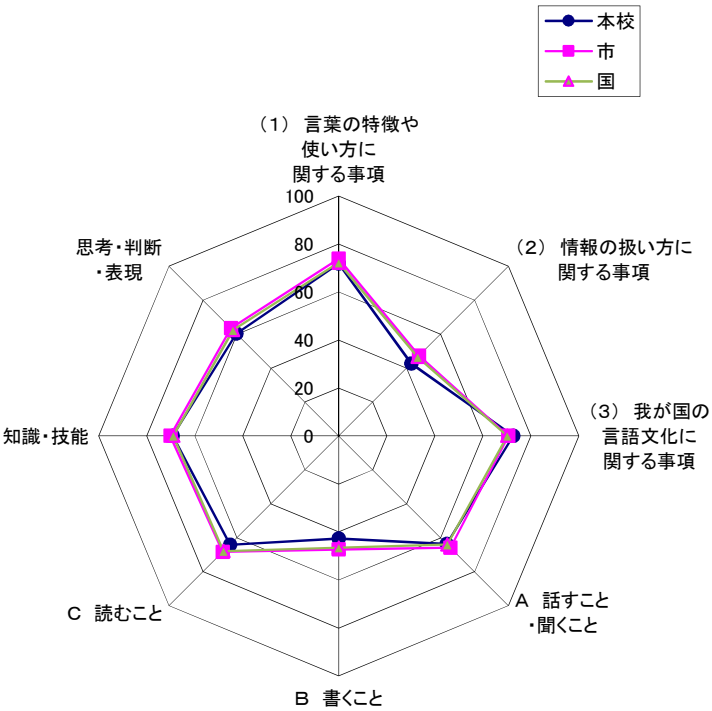
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	71.8	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	42.7	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.7	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	63.6	65.9	63.9
	B 書くこと	42.7	47.3	46.5
	C 読むこと	64.1	68.3	67.9
観点	知識・技能	69.2	70.2	69.0
	思考・判断・表現	60.3	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

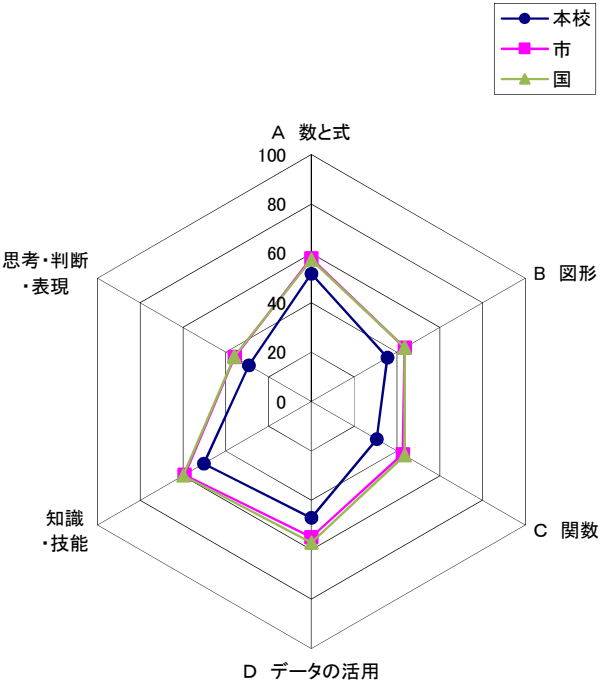
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	正答率は、市平均を2.0ポイント、全国平均を0.4ポイント下回った。 ○文脈に即して正しく漢字を書く問題は、1.9ポイント上回った。 ●助動詞の働きを理解して目的に応じて使う問題のみ、下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の開始時に行う漢字の小テストは、漢字の反復練習の一助となっている。今後も継続して行っていく。 ・文法の理解とともに、文末表現の使い方など、記述問題の実践をしていくことで、理解を定着させていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	正答率は、市平均を4.6ポイント、全国平均を3.8ポイント下回った。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く作文は、市平均より5ポイント下回り、無回答もいた。	・自分の考えを分かりやすく伝えるための作文指導を、今後も継続して行っていく。 ・話し合い活動等を行っていく中で、例題を用いながら、自分の考えを形成させ、表現することに慣れさせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を2.0ポイント、全国平均を2.5ポイント上回った。 ○行書の特徴を理解する問題は、5.2ポイント上回った。	・書写の時間に、始めに楷書と行書の違いを抑えて、半紙に書いていく書写指導を、今後も継続して行っていく。 ・過去の高校入試の問題を取り入れたり例題に数多く触れたりすることで、苦手意識をなくしていく。
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を2.3ポイント、全国平均を0.3ポイント下回った。 ○「スピーチの工夫点」を問われる項目では、市平均を3.5ポイント上回った。 ●「論理の展開などに注意して聞く」項目では、市平均を2ポイント下回った。	・「話すこと」では、スピーチの授業や物事を説明する内容を扱い、伝えたい内容を聞き手に理解してもらえるように、内容構成を指導する。 ・「聞くこと」では、聞き取りテストを定期的実施しており、話を聞くポイントを確認する機会を定期的設けている成果が現れているので、継続していく。
B 書くこと	正答率は、市平均を4.6ポイント、全国平均を3.8ポイント下回った。 ●「根拠を明確にして書く」項目では、5.0ポイント下回り、無回答もいた。	・作品に対して、自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。 ・自分の考えを相手に伝えるために、効果的な文章の書き方や構成の仕方などのコツについて、実践例などを示しながら、細かく指導していく。
C 読むこと	正答率は、市平均を4.2ポイント、全国平均を3.8ポイント下回った。 ○「場面と描写などを結び付けて内容を解釈する」項目では、0.4ポイント上回った。 ●「場面の展開や登場人物の心情の変化を捉える」項目では、6.3ポイント下回った。	・説明的文章の読み取りを苦手とする生徒が多い傾向がある。要約をするときのキーワードの選び方や、内容を省略しまとめるときのポイントを指導する。 ・物語教材では、四コマ漫画やイラストなどで、ストーリー展開がより理解できるようにしながら、内容をとらえられるように、指導する。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	51.7	58.0	57.4
	B 図形	35.5	43.6	43.6
	C 関数	30.6	42.7	43.6
	D データの活用	47.1	54.9	57.1
観点	知識・技能	50.3	59.3	59.9
	思考・判断・表現	29.2	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

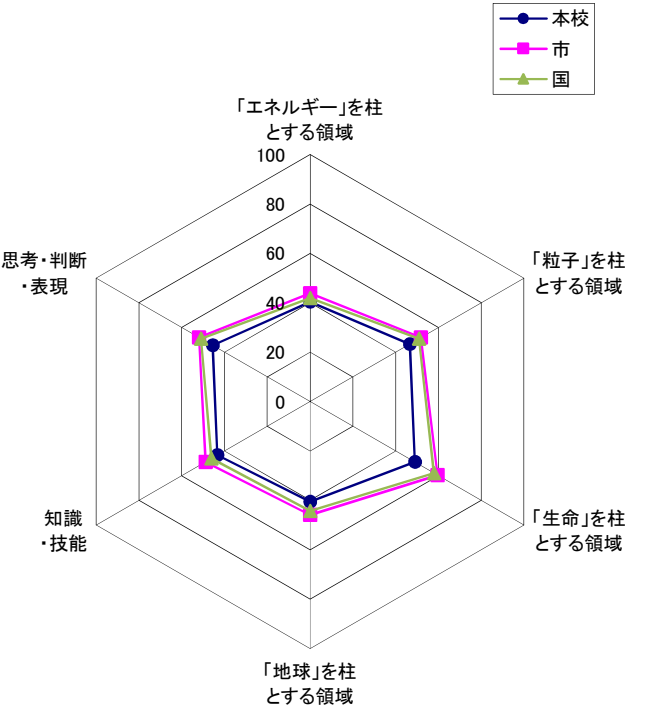
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均を6.3ポイント、全国平均を5.7ポイント下回った。 ○連立二元一次方程式を解く問題は、正答率が比較的高かった。また、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりする問題の正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ●予想した事柄を表現し、説明する問題は、正答率が30.3%と低く、市の平均を7.5ポイント下回った。	・連立方程式などの計算は、様々な問題を解くための基盤となるものであるから、授業の中で計算のポイントを確認し、ワークやプリントで練習を繰り返し行う。また、苦手としている生徒については、AIドリルを活用し、進んで学習に取り組む環境づくりをする。 ・記述で説明する問題については、具体例をあげて、解き方のポイントを押さえながら、同じような問題に取り組ませ、定着を図る。
B 図形	正答率は、市平均、全国平均ともにを8.1ポイント下回った。 ○証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題は、比較的正答率が高かった。 ●筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題は、6.4%と低く、市の平均を5.4ポイント下回った。	・三角形の合同条件などの図形の性質は理解できているので、その性質の使い方を、様々なパターンの問題に取り組みせ、活用できるようにする。 ・図形の証明については、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり着目すべきことを確認し、筋道を立てて考える活動を授業に取り入れる。
C 関数	正答率は、市平均を12.1ポイント、全国平均を13.0ポイント下回った。 ●関数の3問については、すべて正答率が低く、市の平均を10.0ポイント以上下回った。	・式、表、グラフをつなげて考えられるように、授業の中で確認しながら、問題に取り組ませる。 ・式の求め方やグラフのかき方など基本的なことを丁寧に確認し、定着させる。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取らせることで、関数の問題に対応できるようにする。
D データの活用	正答率は、市平均を7.8ポイント、全国平均を10.0ポイント下回った。 ○多数回の試行から確率を求める問題の正答率は、78%と比較的高く、おおむね良好であった。 ●箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題は、31.2%と市の正答率を11.4ポイント下回った。	・用語の意味や求め方をよく整理し、問題に取り組ませる。 ・複数の集団のデータの分布を比較する場面を設定する中で、データを整理して表や図に表し、データの分布の傾向を比較して読み取る活動を取り入れる。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	40.4	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	46.6	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	49.0	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	40.5	45.9	44.3
観点	知識・技能	43.3	48.8	46.1
	思考・判断・表現	45.5	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は、市平均を3.4ポイント、全国平均を1.5ポイント下回った。 ○実験において、条件を設定する問題や正しいグラフを選択する問題では、県や国よりもやや高い結果となった。 ●実験の考察や説明する問題において、県や国よりも低い結果となった。無回答率も高い。	・実験の考察や説明する問題が低い結果となっており、今後は実験結果を考察することや他人に説明する活動を大切に進める。
「粒子」を柱とする領域	正答率は、市平均を5.2ポイント、全国平均を4.3ポイント下回った。 ○化学変化を化学反応式で表す問題では、県や国の正答率より高い結果となった。 ●実験を指摘する問題では、県や国よりも低い結果となった。無回答率も高い。	・化学変化に関しては、今後も分子モデルを活用し、化学反応についての理解を深めさせていく。 ・実験結果のグラフ化やグラフの読み取りに関しては、今後も時間をかけて取り組んでいく。
「生命」を柱とする領域	正答率は、市平均を10.6ポイント、全国平均を8.9ポイント下回った。 ○動物の体について比較する選択する問題では、無回答率が県や国よりも低い結果となった。 ●動物の体について考察したり説明する問題では、県や国よりも低い結果となった。無回答率も高い。	・知識理解分野の問題では、暗記ではなく思考を重視した授業を展開する。 ・問題文や模式図(写真・グラフ・図等)を正確に読み取るために、具体的な事実と模式図を関連させながら理解させる。
「地球」を柱とする領域	正答率は、市平均を5.4ポイント、全国平均を3.8ポイント下回った。 ○気候の変化をグラフから読みとって、適切な天気図で表す問題では、県や国よりもやや高い結果となった。 ●考察の妥当性について判断する問題では、県や国よりもやや高い結果となっているが、無回答率も高い。	・実験結果のグラフ化やグラフの読み取りに関しては、今後も時間をかけて取り組んでいく。 ・起こった現象に対して、なぜそうなるのかを根拠をもって考えさせる活動を充実させていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っています」76.5%（県72.0%、国69.5%）
家庭で携帯電話・スマートフォンの使い方について家の人と話し合い、約束したことを守っている生徒が多いことが分かる。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」90.7%（県89.7%、国86.6%）
自分でやると決めたことは粘り強くやり遂げようとしている生徒が多いことが分かる。今後も、最後までやり遂げようとする生徒の姿を教師が認める取り組みを充実させていく。

○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」週3回以上86.6%（県49.5%、国50.9%）「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。」週3回以上61.4%（県36.6%、国37.2%）
今後も、授業でPC・タブレットなどのICT機器を活用して、生徒自身で調べる取り組みを進めていく。

○「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」74.8%（県66.6%、国65.3%）
○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」79.0%（県78.5%、国74.7%）
自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したり、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたりする生徒が多いことが分かる。今後も、生徒が考えをうまく伝わるように工夫しながら発表する場面を、教師が計画的に設定したり、学習した内容を見直して次の学習につなげたりすることができるように指導していく。

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」93.3%（県92.5%、国89.7%）
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う生徒が多いことが分かる。今後も、国語の授業で考えを新聞形式でまとめたり、詩を歌詞のように作成したりするなどの、実践的な学習を進めていく。

○「数学の勉強は大切だと思う」92.4%（県88.3%、国86.6%）
○「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」84.9%（県79.2%、国76.5%）
数学の勉強は大切だと思う生徒と、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う生徒が多いことが分かる。今後も、数学の授業で学んだことが社会で役立っている内容を、具体的に紹介する取り組みを進めていく。

●「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」3時間以上33.6%（県24.5%、国29.8%）
●「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」3時間以上36.9%（県24.7%、国29.5%）
学級活動を通して、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンの使い方について繰り返し指導するとともに、各種たよりや保護者会、ノースマホデーなどの取り組みを通して、家庭でもよりよい使い方を工夫するよう呼びかける。

●「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」85.7%（県90.6%、国86.6%）
●「学校に行くのは楽しいと思いますか」68.9%（県84.1%、国82.9%）
●「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」63.1%（県72.3%、国66.1%）
●「将来の夢や目標を持っていますか」63.9%（県71.8%、国67.3%）
●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」93.3%（県95.8%、国95.0%）
さまざまな場面で、生徒のよさを認め励ます言葉掛けを充実させることにより、生徒が自信をもって学校生活を送り、何事にも失敗を恐れず挑戦できるような雰囲気づくりを目指す。また、特別活動などにおいて、一人一役をより一層充実させることで、集団の一員として役に立っている実感をもたせるような指導を工夫していく。

宇都宮市立宝木中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『わかる授業』のより一層の推進 ①「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示	○国語の授業の内容はよくわかりますか 84.9%（県84.7%、国81.2%）
		・数学の授業の内容はよくわかりますか 76.5%（県78.9%、国76.2%）
		・理科の授業の内容はよくわかりますか 77.3%（県80.0%、国75.2%）

	②話し合い活動の積極的な導入	○1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか 74.8%(県66.6%, 国65.3%) ●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 80.7%(県89.3%, 国85.5%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか 79.0%(県78.5%, 国74.7%)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか 62.2%(県65.0%, 国58.5%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて ①「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を 95%以上にし、習慣化を図る。	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を毎時間、確実に行う。各教室に備え付けてあるマグネット(赤い☆マーク)を利用し、生徒が目標を理解した上で授業を受けられるようにする。
②授業で使うノートの効果的な活用を図り、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている生徒の割合を90%以上にする。	②効果的なノートの活用	②-1 教科担任によるノートの確認などを通して、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書かせる指導を充実させる。 ②-2 教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。
③授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。	③話し合い活動の積極的な導入	③学級担任による学級活動の活性化を図ることで学びに向かう集団作りの基盤とするとともに、各教科担任による授業中の話し合い活動の充実させる。
④生徒間の話し合い活動をより一層充実させ、考えを深めさせたり、広げたりすることができている生徒の割合を85%以上にする。	④生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	④教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通じた、授業力の向上を図る。
⑤学習内容の振り返りを習慣化させる。	⑤「ふりかえり」活動の徹底	⑤ワークシートやまとめのテスト、自己評価などを活用して、学習のねらいに即した振り返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて ①家の人と学習について話をしている生徒の割合を85%以上にする。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	①三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実させる。
②予習、復習などの計画的な家庭学習を、より一層充実させる。	②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛	②-1 学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言を行い、誉める指導を充実させる。 ②-2 優れたノートの学年の廊下への掲示と、小学校への紹介を行い、実践例の紹介を通して、自主学習ノートの活用と工夫を促す。
③「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ、学習内容の効果的な定着を図った復習を実施させる。	③家庭学習の仕方を明示、説明	③-1 教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実させる。 ③-2 本校独自の「家庭学習の手引き」を活用し、保護者にも家庭学習の方法を紹介して、家庭学習の充実を促す。